

「水俣病は公害」と認定

厚生省・科学技術庁が政府見解

原因はチツソの廃液

熊大の研究結果を採用

新潟は「企業責任」不明



政府見解を発表する園田厚相

熊本の水俣病については「水俣病は公害病である」と熊本大学の研究でとれる魚介類を多量に食べることによって起る中毒性疾患で、その原因は新日本製薬水俣工場（現チッソ水俣工場）から排出されたメチル水銀化合物によるものである」と認定、今後

は患者の医療補助や治療、社会復帰などの対策を積極的に進めることにしている。これと事件発生以来、水俣病については十五年ぶり、新潟水俣病については四年ぶりにようやく国の設置見解が出たわけである。この見解は今後、被災者に対する補償問題や裁判に大きな影響を与えるものとみられている。

熊本水俣病の政府見解は、まず水俣病が水俣でとれた魚介類を長期間にわたって多量に食べることによって起る中毒性疾患であるとし、その原因は新日本製薬水俣工場（現チッソ水俣工場）のフセソルテヒド酢酸設備内でつくられたメチル水銀化合物と断定している。そしてこのメチル水銀化合物が、汚染された川で魚介類が蓄積され、地城住民がこれを食することによって水俣病が発症したとしている。

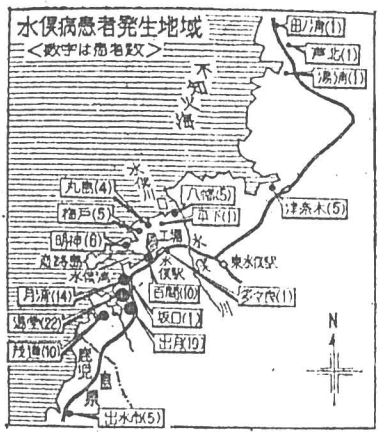
新潟の水俣病については、熊大の研究成果はメチル水銀化合物で汚染された結果、同川の川魚にそれが蓄積され、その魚を多量に食べたため発生した。同大が、長期継続的に汚染されたことが中濃原因として昭和四十二年、新潟県新潟市から排出されたメチル水銀化合物が、汚染の原因と認定された。同大の研究成果は、新潟県新潟市から排出されたメチル水銀化合物が、汚染の原因と認定された。同大の研究成果は、新潟県新潟市から排出されたメチル水銀化合物が、汚染の原因と認定された。

すっきりせぬ新潟

あまりにも遅い決断

【解説】一つの政府見解は、同じ有機水銀中毒事件を扱いながら、肝心の「企業責任」で見解がわかれるというすっきりしないものとなった。つまり、熊本水俣病では中濃原因を「新日本製薬の工場廃液」とし、企業責任を明確にしているのに、新潟水俣病では「メチル水銀化合物が中濃原因」としながらも「公害」と認定せず、企業責任をあいまいなものにしている。

熊大の研究成果はメチル水銀化合物で汚染された川魚にそれが蓄積され、その魚を多量に食べたため発生した。同大が、長期継続的に汚染されたことが中濃原因として昭和四十二年、新潟県新潟市から排出されたメチル水銀化合物が、汚染の原因と認定された。同大の研究成果は、新潟県新潟市から排出されたメチル水銀化合物が、汚染の原因と認定された。



【解説】一つの政府見解は、同じ有機水銀中毒事件を扱いながら、肝心の「企業責任」で見解がわかれるというすっきりしないものとなった。つまり、熊本水俣病では中濃原因を「新日本製薬の工場廃液」とし、企業責任を明確にしているのに、新潟水俣病では「メチル水銀化合物が中濃原因」としながらも「公害」と認定せず、企業責任をあいまいなものにしている。

いる。この点解によると、昭電の
企業責任は明らかにされていない
が、一方、昭電が主張していた感
染病はほぼ完全に否定している。

厚生省は二つの水俣病を“公害
病”と認定したことにより、今後
の医療対策としては公害医療研究

費補助金で県、市と協力、新たに

患者のリハビリテーション（社会
復帰）のための医療研究などを実
施する。また、水俣湾と阿賀野川
については今後も水銀による環境
汚染防止のため、工場廃液などに
ついての調査、監視を続けていく
ことにしている。

厚生省は、今後、公害をめぐる

紛争の処理と被害の救済制度の確
立をはかるとともに、水銀による
不幸な公害事件を二度と繰り返さ
ないため、工場廃液などについて
の規制などに努力するといってい
る。